

令和4年度（2022年度）第2回北区まちづくり懇話会 会議録

【日 時】 令和5年（2023年）1月26日（木）午後2時～午後4時

【場 所】 北区役所2階第2・3・4会議室およびTeamsテレビ会議

【出席委員（敬称略、五十音順）】

浅井賢一、荒木善光、白石幸春、高木昭憲、戸野口庄子、野原眞藏、
福田豊子、松尾美佳、丸山泰、山崎雄三 以上、10名

【傍 聴】 0名

【会議次第】

- 1 開会
- 2 北区長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 職員紹介
- 5 北区まちづくり懇話会の役割と今後の懇話会について・・・・・・資料1
- 6 説明事項および意見交換・・・・・・・・・・資料2・資料3
 - (1) 北区まちづくり検証資料（案）における「まちづくり主要指標の動向」について
 - (2) 北区まちづくり検証資料（案）における「基本方針ごとの主な取組と成果」について
 - (3) その他
- 7 閉会

1 開会

2 北区長挨拶

(小崎北区長)

本日はお忙しい中、北区まちづくり懇話会に出席いただき、ありがとうございます。Teams での出席の松尾委員につきましても、よろしくお願いいたします。

この1年半の間、対面式、書面開催も含め、懇話会の開催ができなかったことについて、誠に申し訳ございませんでした。

本日の懇話会ですが、主に平成25年に策定した北区まちづくりビジョンについて、これまでの10年間を振り返り、検証を行うための意見をいただきたいと思います。今期の第1回目は書面開催としたが、検証資料とあわせて動画による説明を行わせていただいた。40分を超える長い動画ではあったが、書類だけでなく、目や耳で見て聞いていただいた方がわかりやすいだろうとのことで、初めての試みであった。おかげでたくさんのご意見をいただくことができた。本当にありがとうございます。

本日は、忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 委員紹介

(1) 会長・副会長選出

(2) 丸山会長挨拶

この回も久しぶりということで、ようやく対面での会議ができるようになって良かったと思っている。書面でも確認いただいたところだが、ビジョンができて10年というタイミングでの懇話会ということで、次の10年に向けての意見を出し、今後に反映していただくような懇話会になればと思っている。委員の皆様におかれましては、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

4 職員紹介

5 北区まちづくり懇話会の役割と今後の懇話会について

- ・資料1に沿って事務局より説明

(丸山会長)

- ・今年度の懇話会も3月までということなので、3か月で何ができるかという考えの委員もいらっしゃるかもしれない。この3月までについては、10年間の振り返りをされているまちづくりビジョンについての意見を出して、そ

れを次に反映できるように事務局に渡すという目的にしたいということである。

- ・また、来年度も続くとなると、次のビジョンづくりに対する意見を出すことになるのかとも思うが、来年度以降についての見解はどうか。

(事務局)

- ・ビジョンについては本市の総合計画との整合のもと、策定を行っていく方針である。次のビジョンについては、これまでと同様の形で継続して新たなものになるのか、総合計画との整合により別の形になるのかの最終決定をしていないものの、まちづくりの指針として新たな目標を設定して進めていく必要があると考えている。
- ・懇話会の委員の皆様のご意見をいただきながら、新たな課題に向かって整理・対応を進めていきたいと考えており、懇話会の皆様には引き続きの協力をお願いしたいと考えている。

(丸山会長)

- ・10年という過渡期にあたるため、3月までは懇話会においても振り返りをつつ、ビジョン検証という形で委員の皆様の意見を集約する形で進めていく。

6 説明事項および意見交換

(1) 北区まちづくり検証資料(案)における「まちづくり主要指標の動向」について

- ・資料2・3に沿って事務局より説明

①人口・世帯

(丸山会長)

- ・高齢単身化が待ったなしの時代であるという認識。2人に1人が高齢者になるという校区もあるということだが、それは熊本市においても特異的な校区であるか。

(事務局)

- ・高齢化が60%を超える校区も他区ではあるものの、2人に1人が高齢者という校区は特異的である。

②健康・福祉

(福田委員)

- ・まちづくりや地域の活性化という中で、「子育て支援」がこれからの将来、未来にわたって重要なキーワードだと思っている。熊本市で実施されている子ども・子育て支援体制の具体的な取組とはどういったものか。

(事務局)

- ・待機児童 0 に対する保育の拡充の取り組みや結婚子育て応援サイトでの情報発信、保育利用者のニーズに応じた支援といった取組がある。また、ここ数年では保育園の無償化、産後ホームヘルプサービスといった産後ケアなどがある。

(福田委員)

- ・学童保育についてはどうか。

(事務局)

- ・児童育成クラブの所管は教育委員会になるが、夏休みにおける利用時間の拡大や小学 3 年生までであった対象者を高学年までとするなどの拡充を行っている。

(丸山会長)

- ・子育て支援については、公的な支援が拡充して、充実度が上がっているということが推測できる。一方で、子育て支援活動に対する市民参加の割合は減っている。単身化、核家族化により、家族の支えに頼るやり方は難しい側面もあるのではと感じた。

③防犯・防災

(丸山会長)

- ・年齢が下がると最寄りの避難所を把握している人の割合が減るのは、実際に何か起こった時の課題ではないかと思う。

④産業

(丸山会長)

- ・産業というのは、区民の生活の質につながったり、買物問題とも結びついたりする。そのような点から、産業について区がどうアクションをするのかを考えるポイントになるかもしれない。
- ・また、第 1 次産業の従事者が維持されているのは、世代交代が上手くいっているのか、従事者が高齢化しても頑張っているのか、どういうふうに理解したらよいか。

(事務局)

- ・第 1 次産業の従事者が大きく減少していないということについて、北区は施設園芸がさかんな地域であり、若手の後継者が他の地域に比べれば多いという状況がある。また、農業については長い期間就労することが可能であることから、引退される方が今はまだ多い状況ではないといったこともあるかと思う。

(丸山会長)

- ・若手の方が増えているのは、次の世代に向けていい傾向だと思う。

⑤道路・交通

(福田委員)

- ・ゆうゆうバス運行開始の際、運行ルートについては地域ヒアリングやニーズ調査などがあったのか。

(事務局)

- ・地域ヒアリングや説明会が実施されたり、熊本市におけるバス交通のあり方検討協議会で検討されたものである。

(白石委員)

- ・コミュニティ交通やゆうゆうバスについて、費用対効果が悪いのではないかと。とてもうまくやっている地域があったりするのだろうか。

(事務局)

- ・近隣市町村のレターバスについては、市内全体を巡回し、商業施設までつながっていることから、利用しやすいといった利点があると思う。
- ・弓削乗合タクシーについては運行協議会の運行ルート見直しにより、利用者数が伸びた事例かと思う。
- ・南区では「AI（人工知能）デマンドタクシー」の実証実験も行った。

(白石委員)

- ・原理原則を見直して、住民の利用しやすい交通を望むし、交通についてはかなり高度な専門性がいると思っている。

(丸山会長)

- ・ゆうゆうバスの運行は区でコントロールできるのか。

(事務局)

- ・ゆうゆうバスを含め公共交通については、区の所管にはない業務になる。移動円滑推進課にて市域全体の公共交通、交通空白地域、交通不便地域への対応をどう考えていくかの方針の検討が行われている。

(丸山会長)

- ・区から本庁については、実情をしっかりと伝えていただくことが重要だと思う。冒頭にもあった人口減少や高齢化がより進む地区があるとするよりそういう交通手段が求められると思うので、実情を全体で理解いただいて、場合によっては特区扱いのような対応が必要にもなってくる地域も出てくるのかと思う。

(松尾委員)

- ・龍田や弓削の地域から植木地域や北部地域への移動が正直難しいし、以前に

循環ルートがあったことすら知らなかった。当時の周知はどうだったのだろうか。

(事務局)

- ・これまでの経緯や周知の方法については、またご報告させていただく。

(丸山会長)

- ・熊本市はバスの利用が少ないようである。車依存社会ということであるが、調べてみるとルートを知らないから公共交通機関を利用しないといった割合も高いと聞く。周知徹底は重要であるし、高齢者に対してどう情報を届けるかが重要である。道路・交通に関しては、どうやって利便性を確保していくかは、今後 10 年間においても重要なポイントだろう。

(荒木副会長)

- ・交通については、まちづくりや住みやすさ、人が生活する上で大変重要なことだと考えている。既存のルートを見える化することや、費用対効果の検証をしつつ、お金がかかっても地域にとって必要な仕組みの検討も必要。
- ・高齢になって免許を持てなくなった方々については、健康の面においても、温泉や買物など人との交流の場に行くのに公共交通を利用することも重要であると考えている。

(丸山会長)

- ・道路・交通の利便性というだけでなく、交流というサポートと捉えなおすことで、交通の意義もかわるだろうし、そういった視点も大事だと思う。

⑥住民自治・協働

(山崎委員)

- ・幼児の分野で働いているが、子育て世代が新居を構える際、近隣の市町に移る方が多いと感じている。特に、「子育て世帯に優しい市」に移られる方が多く、子育て世代にとっては近隣の市町が魅力的にうつっているのだろうと感じる。
- ・大西市長のマニフェストの中にも子育て支援の拡充も厚く、そういった意味では、熊本市もより一層良くなっていくのだろうと期待はしている。

(丸山会長)

- ・今後の自治会活動参加への問題点として、コロナでぐっと下がってしまったと思う。多少回復はすると思うが、地域活動に従事する人の高齢化もあって元の状況には戻らないだろうと考えられる。今後、どのような形で住民自治をやっていくのかということについては、新しいことを今後 10 年で考えていくことが必要だと思う。

⑦政令指定都市移行 10 年に伴うアンケート

(丸山会長)

- ・交通道路について不満があつて今後も期待しているということだろうし、福祉の分野は高齢化あるいは単身化を踏まえた将来への不安があつて期待につながっているのかと思った。

(白石委員)

- ・期待する都市の姿は良くわかるが、地域の特性に合わせた特色ある地域づくりの活発な都市があまり高くない。どう見るかということかと思う。皆さんにとっては、あまり地域活動はしたくないのかなとそういうふうを受け止めると、地域活動に参加している者として残念な気持ちになる。このあたりの低い期待度については、北区役所はどう考えているか。

(北区長)

- ・先ほど住民・自治協働で紹介した「地域活動に参加した割合」について、令和 2・3 年度はコロナの影響で減っていることをご説明したところ。令和 3 年度の熊本市全体では 29.5%なのだが、5 区で比較すると、実は北区が一番高い。地域活動に対して期待するという数字が低いという状況ではあるものの、地域活動への参加の割合が 5 区の中では高くなっているので、これを維持して、広めていく必要があると考えている。
- ・自身も地域活動に参加しているものの、なかなか隅々まで行き届かないということも実感している。だからといって諦めることなく、続けていく必要があると思っている。

(丸山会長)

- ・政令指定都市に移行して 10 年で、熊本市として、北区として、全体が一つになるという活動にスポットが当てられた結果ということもあるかと思う。
- ・次の 10 年では今度は隅々まで気を配っていく、地域の活動に目配せしていくというような意識にもなってくるのかもしれない。

⑧新型コロナウイルス感染症まん延による地域への影響（北区）

- ・意見なし

(2) 北区まちづくり検証資料（案）における「基本方針ごとの主な取組と成果」について

- ・資料 2・3 に沿って事務局より説明

◆基本方針 1 健康と暮らしの安全・安心の向上

- ・意見なし

◆基本方針2 住みやすい住環境の整備

(丸山会長)

- ・交通に関しては専門的な知識もいるという意見も先ほどあったように、現場だけでは解決が難しい部分もあるが、専門の部署に対して区民の利便性のための要求を伝えることはできると思う。交流がなくなることが困るといった要望をしっかりと提言していくことが必要かと思う。

◆基本方針3 まちの賑わいと産業の振興

(丸山会長)

- ・農業がさかんで新鮮な野菜がとれる地域であることを区民の皆さんも認識されていて、誇りを持っており、今後はどうやって北区を輝かせていくことのヒントがここにもあるかと思う。

◆基本方針4 資源の継承と活用

(丸山会長)

- ・委員の皆さんの方が北区の地域資源（温泉、史跡、自然環境）が多いと認識されているようだ。
- ・これまでの10年間は政令指定都市として一体感を出す方向であったが、これらは個性を打ち出していくという変化を考えると、地域資源を区全体で認識しておく必要があると考える。

◆基本方針5 住民自治と協働の推進

(丸山会長)

- ・北区のYouTubeの状況はどうか？

(北区長)

- ・現時点で合計41本の動画をあげている状況で、今後また子どもたちの動画を掲載する予定。他区でもYouTubeチャンネルを登録しているが、本数でいえば、北区の方が多い状況。
- ・北区のチャンネルの内容については、地元の方がされている活動を見ていただきたいと思って掲載している。昨日掲載した動画は、北区役所の耐震改修工事の様子で、特殊な工事や駐車場の入口の変更を撮って投稿した。
- ・このチャンネルについては、職員自身が楽しみながら、まちづくりの一環としてやっている取組である。

(福田委員)

- ・いろんな取組・施策をやっていることを改めて知った。今まで自分はあまり

知らなかった。もっと勉強しないといけないなと思ったし、いろんな努力をされている。北区民はこういったサービスを利用しなければいけない、もったいないと思う。

- ・さまざま取組といった素材は完璧だと思うので、区民に情報をどう伝えるかが重要。それが予算なのか、スキルなのか、そういったところに力を投じるべきステージにきているかと思う。さまざまな素晴らしい施策、北区のたくさんさんの自然や区民といった資源を発信する取組をぜひ行ってもらいたい。

(丸山会長)

- ・区役所が撮影して、区民が発信するといった方法もあるかもしれない。動画配信はインパクトがあると思うので、どんどん活用して欲しい。

(3) その他

(丸山会長)

- ・この10年間、なんとか維持できている部分、高齢化など気を付ける部分、アフターコロナを見据えた自治のあり方をどうするかといった課題を見えてきた。
- ・これらの意見検証の最後に懇話会からの意見をつけさせていただければいいのかなと思う。多数のご意見、ありがとうございました。

7 閉会